

2020年11月19日

開業当時のデザインなどを再現しながら生まれ変わります！

## 宇都宮線 南宇都宮駅の駅舎リニューアルが完成！

～ 開業当時の大谷石を保存し、日本遺産に認定された「大谷石文化」の一端を担います！ ～

東武鉄道株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）では、2020年3月より宇都宮線 南宇都宮駅舎のリニューアル工事を進めていましたが、このたび11月20日（金）に完成します。

今回のリニューアル工事では、宇都宮市や地元の方々などのご協力を得ながら、同駅が開業した1932（昭和7）年からある貴重な大谷石の壁面を保存・補修したほか、新たに大谷石の壁面を増設することで、地域の方々により親しまれる駅舎を目指しました。また、青緑色の洋風瓦は、開業当時の<sup>ゆうやく</sup>釉薬色を再現し葺き替えを行い、内外装の塗装か所は、塗膜を調査・分析のうえ開業当初の色合いに塗り直しました。

大谷石は地元の宇都宮市大谷町で産出される石材で、古くから外壁や塀などの建材として使用されており、大谷石を多く使用した南宇都宮駅舎は、駅開業以来およそ90年にわたり、地域のシンボルとして親しまれてきました。近年、大谷石を取り巻く環境は歴史・文化的にも評価されており、2018年5月には文化庁が認定する日本遺産に「地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～」として選定され、当駅は構成文化財として大谷石文化の一端を担っています。

当社では、今後も地域に親しまれ、お客さまにより快適にご利用いただけるよう、駅舎のリニューアル工事を推進してまいります。

概要は別紙のとおりです。



△リニューアルした南宇都宮駅 駅舎



△開業当初を再現した待合室

※お問い合わせは、東武鉄道お客さまセンター TEL03-5962-0102

## 宇都宮線 南宇都宮駅 駅舎リニューアルの概要について

- 1 完 成 日 2020年11月20日（金）  
※お客さま用トイレは2019年8月7日より使用を開始しています。
- 2 所 在 地 栃木県宇都宮市吉野2-8-23
- 3 延 床 面 積 駅舎 128.81㎡  
※お客さま用トイレ 35.40㎡
- 4 構 造・規 模 木造 平屋建て  
[駅事務室、お客さま用トイレ（男・女）]
- 5 設 計 会 社 株式会社オー・エヌ・オー大野設計
- 6 施 工 会 社 東武建設株式会社
- 7 駅 開 業 日 1932（昭和7）年4月17日



△工事着手前の駅舎外観

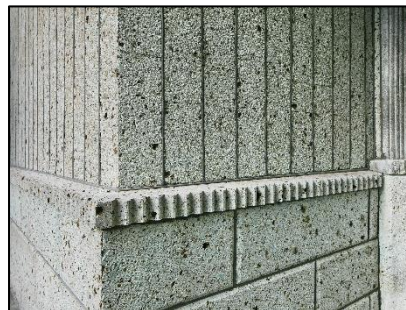
### 8 主なポイント

今回のリニューアル工事では、トイレのリニューアル工事、耐震性の向上及び券売機カウンターのバリアフリー化も実施し、より快適で安全な駅へと生まれ変わります。

修復にあたり開業当時からある縦貼り・横張りの大谷石、縦長の三連窓、出入口上部の欄間、待合室内の格天井、庇の持ち送りなどは補修により保存しつつ、新たに大谷石の壁面を増設し、全体のデザインを統一しました。青緑色の洋風瓦は、釉薬の調合と試し焼きを繰り返し、同駅新築時の色合いを再現すると共に、待合室内装などの塗装面は塗膜を調査・分析し、開業当初の塗装色に塗り直しています。また、特徴的な破風板は、宇都宮常設野球場（現宇都宮市立宮の原小学校）の最寄駅でもあったことに由来するバットとボールを模した開業当初のデザインに修復しました。なお、同駅待合室には、宇都宮市や東武博物館にご協力いただき大谷石の文化や魅力の発信を目的としたパネルを設置します。



△大谷石と洋風瓦が特徴的な駅舎



△増設した大谷石の壁面



△バットとボールを模した破風板



△縦長の三連窓と庇の持ち送り



△格天井と明り取り窓



△リニューアルしたお客さま用トイレ

### ※「日本遺産」について

地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。（文化庁HPより）